

## 第3分科会

『大学の学び』を展望する高校での学びと体験  
～生徒の主体的・多面的な参加～

[報告者] 大山口 暁（京都産業大学附属高等学校 探究科主任）

[報告者] 佐藤 賢一（京都産業大学 生命科学部 教授）

[コーディネーター] 塩田 明信（京都産業大学附属高等学校 副教頭）

高校からは「変化の激しい時代において、人と人の間に入り、自ら考え、課題を発見し、チームで解決できる力を身につける」ことを目指す学校設定教科目『『人間力』講座』の取り組みを報告する。大学からは、全学共通・初年次教育科目で広く高校等での実践事例もある「ハテナソンセミナー」におけるQFT（米国発の教育メソッド）を用いた学習者主体の問いづくりについて、来歴、ワーク構成や狙い、学習成果を紹介する。

### 概 略

報告1は、京都産業大学附属高等学校KSU（内部進学）コース第2学年に設置されている『『人間力』講座』についての報告であった。開講から8年目となるが、担当する主体の変更があり、今年度から内容を一新している。背景として受講生徒の特徴、企業や社会から求められる資質・能力、子どもたちが持つ「夢」と実際の進路選択の理由等の話題に触れ、その後、講座の目的・狙いや実践している内容について報告された。

報告2は、京都産業大学全学共通・初年次教育科目のほか、さまざまな場で紹介・実践されている「ハテナソンセミナー」についての報告であった。「ハテナソン」誕生の経緯と概略、大学で行われているプログラム等の説明から始まり「ハテナソン」独特のルールを理解して実際にどのように進めるのかグループワークによる体験の時間が設けられた。関連書籍や「NPO法人ハテナソン共創ラボ」による養成セミナー等も紹介された。

### 全体討論の内容

報告1に関して、質問「Step2での行動計画ワークシートはどのような内容か？」

回答：2週間の取り組みにおけるチェックリスト等を、例として提示した。実際の構成はできるだけ生徒に任せるようにしている。一方で何も無いところから作るのは生徒にとって難しいので、例示は必要。

報告2では「ハテナソン」を体験するグループワークを、3～5名程度のグループで、2つの課題に分けて実施した。前半は「問い重ねワーク」により「ハテナソン」のルールや進め方を理解することを中心に、グループのメンバー間で質問を重ね合い自己紹介を兼ねるような形で練習した。後半は、報告者より提供されたデータ（基本スキル到達度グラフ）を題材に問いを出し合

い「ハテナソン」の方法で深める練習を行った。

#### 到達点と今後の課題

「探究」をはじめさまざまな教科にも共通する、生徒が主体的に多面的な活動に参加して、大学や社会での学習・研究や実践につながる資質・能力を育む経験や方法に触れ、学び、交流するという面では、一定の成果を得られたと考えている。時間の制約もあり、質疑や討論が十分にできなかったのは残念だが、報告でも紹介されたセミナー等の機会も利用して、より理解を深めていただきたい。ハイブリッド形態での開催により、グループワークにおいてオンラインでの参加にはやや困難も伴い、一層の工夫が求められたと言える。



スライド1

第20回高大連携教育フォーラム 第2部 第3分科会

**『大学の学び』を展望する高校での  
学びと体験**

~生徒の主体的・多面的な参加~

京都産業大学附属高等学校  
探究科主任 大山口暁

スライド2

**自己紹介**

2007年 京都産業大学卒業  
企業に就職（営業職）

2009年 京都産業大学附属高等学校赴任

2018年 「人間力講座」担当（内部進学を扱う部署管轄）  
NPO法人グローバル人材開発センターがメイン

2020年 探究科を設置  
探究科主任に任命  
「人間力講座」を主で扱う部署に！  
探究科としての1年目はコロナとの闘いに終始

2021年 2年目もコロナとの闘いが続く・・・

2022年 今年度、初めて休校などの影響を受けていない



スライド3

京都産業大学附属高等学校の生徒特性

個人的な意見ですが・・・

**真面目で良い子が多い！**

スライド4

大学・社会で学んでいくために必要な力

企業が学生に求める資質・能力は？

**第1位 主体性**  
**第2位 実行力**

引用：日本経済団体連合会「高等教育に関するアンケート結果」より 2018年4月17日

⇒ **主体性をもって実行する力**

スライド5

**高校生の主体性**

高校生は主体性をもって行動できているか

課題を感じる	44%	} 85%の教員が 課題を感じている
課題をやや感じる	41%	
あまり感じない	12%	
感じない	3%	

引用：河合塾ガイドライン 対象は読者の高校教員182件 2015年7月

スライド6

**高校生の主体性**

主体性を育むために必要なこと

**「目標設定」「振り返り」のサイクル**

引用：㈱リクルートマーケティングパートナーズ  
㈱リクルートマネジメントソリューションズの調査より

適切に「目標設定」「振り返り」の  
サイクルを回すためには？

**目標を自分の興味や関心ごとに設定する**

スライド7

**高校生の主体性**

子どもの  
興味・関心ごと  
やりたいこと

≠

親（教員）の  
やらせたいこと

スライド8

**小学生の夢**

■2021年「小学生がなりた職業」集計結果

男子児童			女子児童				
順位	(前回)	職業	票数	順位	(前回)	職業	票数
1	( 1 )	サッカー選手・監督など	123	1	( 4 )	医師	104
2	( 2 )	野球選手・監督など	97	2	( 2 )	看護師	91
3	( 3 )	医師	78	3	( 3 )	保育士	90
4	( 6 )	ユーチューバー	72	4	( 8 )	イラストレーター	84
5	( 5 )	ゲーム制作関連	62	5	( 7 )	教師	78
6	( 4 )	会社員・事務員	59	6	( 1 )	薬剤師	71
7	( 11 )	プログラマー	43	7	( 9 )	美容師	64
7	( 9 )	建築士	43	8	( 6 )	パティシエール	60
9	( 11 )	飼育員	41	9	( 4 )	獣医	48
10	( 7 )	料理人・シェフなど	39	10	( 29 )	会社員・事務員	36

第15回小学生「夢がかなえる」作文コンクール 応募作品数:3,357点(男子児童:1,565点/女子児童1,792点)を集計

引用：日本FP協会 2022年3月1日

スライド9

**中学生の夢**

中学生は高校を何で選んでいる？

**第1位 「学力に合っているか」** 【親】94.7% 【子】94.9%

また、64.1%の生徒は「自分が行きたいかどうかではなく、自分の学力レベルに合わせて選んだ」と回答

引用：ベネッセ教育研究開発センターが刊行した「高校データブック2013」

「興味や関心ごと、やりたいこと」 < 「学力、偏差値」

スライド10

**大学の中退とミスマッチの関係**

引用：ベネッセ教育総合研究所「大学生の中退防止に向けて」2013年

- ①大学の志望度が下がると退学傾向が高くなる
- ②第一志望の大学でも学部志望度がさがると退学傾向が高くなる

自分の興味・関心ごとから離れた学部・学科の学生は退学傾向が高い

スライド11

**京都産業大学附属高等学校の生徒特性**

改めて・・・

**真面目で良い子が多い！**

スライド12

**人間力講座の理念**

人間力講座は  
自分の興味・関心を引き出し  
「主体的に行動を起こす」  
きっかけを与える授業

教員はどのようなサポートができる？

スライド 13

探究科マインドセット		
教える → 学ぶ		
	教師中心主義	学習者中心主義
授業のスタイル	一言講義中心	グループ学習中心
学びのリソース	テキスト	お互いの違い
学習内容	正解	正解のない問い
情報の流れ	教師 → 生徒	生徒 ⇄ 生徒 ⇄ 教師
学習ペース	同期	マイペース
生徒の前提	均質に揃える	多様性を確保する
教師の役割	教えること	ファシリテーション

引用・改変：「ZOOM革命」田原真人氏の図より

スライド 14

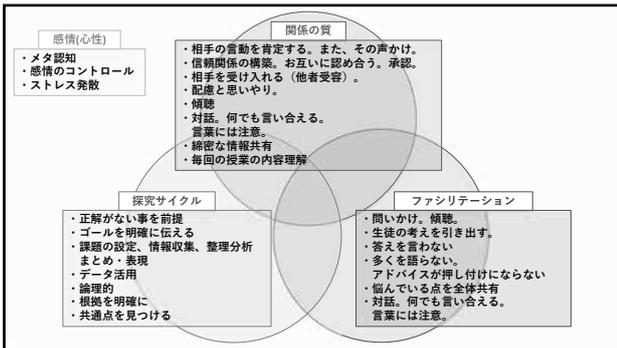
探究科マインドセット



**【ブレスト】**  
 ①授業で大切にしたいこと  
 ②生徒の対応で大切にしたいこと  
 ③教員間で大切にしたいこと

**【K法】**  
 付箋を4グループに分ける  
 ①関係の質  
 ②ファシリテーション  
 ③探究サイクル  
 ④感情（心性）

スライド 15



スライド 16

人間力講座 年間カリキュラム 3STEP

**【STEP1】 自分を知る**  
 自分の在り方・生き方を考える ⇒ 「なりたい自分」  
 自分の興味・関心ごとを考える ⇒ 「やりたいこと」

**【STEP2】 自分のために、とにかく「行動」する**  
 「なりたい自分」×「やりたいこと」  
 小さくてもいいから自分らしく行動することを念頭に置く

**【STEP3】 他者のために、とにかく「行動」する**  
 身近な人のために行動する  
 困り事の解決や、幸福感を高めるためにできることを考える

スライド 17

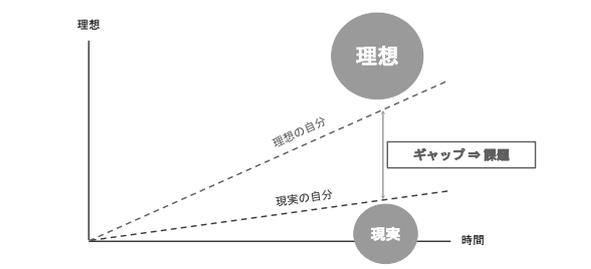
**【STEP1】 「主体的に行動を起こす」ために自分を知る**

なりたい自分 × 興味・関心ごと やってみたいこと

⇒ どんな「行動 (Action)」をしていく？

スライド 18

**【STEP1】 自分の課題設定・発見ワーク**



「なりたい自分」になるために必要な力を考える



スライド 25

【STEP1】 「主体的に行動を起こす」ために自分を知る

なりたい自分

×

興味・関心ごと  
やってみたくこと

⇒ どんな「行動 (Action)」をしていく？

スライド 26

【STEP2】 行動計画を立てて実行

- ・行動計画書を作成
- ・実施期間後に行動結果を整理するワークシートを記入
- ・ワークシートをもとに中間報告

【実施期間】

第1回：9月27日～10月10日  
※10月11日 中間報告会（振り返り・ブラッシュアップ）

第2回：10月11日～10月31日  
※11月 1日 中間報告会（振り返り・ブラッシュアップ）

第3回：11月8日～11月21日  
※11月22日 最終表現

スライド 27

【STEP2】 注意事項

行動計画がただの「**苦行**」になってないか？

自分が「やろう！」と思える行動になっているか？

行動に移せないなら、その行動をやめてもいい。

うまくいなくて失敗してもいい。 やめることも  
大事！ 失敗することも  
大事！

その場合は行動内容の再設定をして、再スタートしよう。

スライド 28

【STEP2】 社会人ゲスト座談会

【目的・主旨】  
社会の第一線で活躍している人がどのような『行動』をしてきたのかを知り、自分の行動を改めて考える。

【座談会内容】

- ・行動に移せなかったこと、やめたこと、失敗したことなどの経験談。
- ・また、それをどのように乗り越えたのか。
- ・自身の「なりたい」「やりたい」をどのように実現したのか。
- ・または実現しようとしているのか。
- ・そのためにはどのような工夫や行動をしたのか。
- ・今どのような行動をしているのか。

【参加ゲスト】  
フォトグラファー、映画監督、コピーライター、ボードゲームクリエイター、デジタルクリエイターなど様々な職種の社会人が参加（計13名）

スライド 29

【STEP2】 社会人ゲスト座談会

どのゲストの話が聴きたいか事前に調査をとる。  
原則、第一希望を優先させた。  
人数調整で第二希望に回った生徒も若干名いた。

↓

選択制にすることで生徒の自己決定力を育む

スライド 30

【STEP2】 社会人ゲスト座談会

今年度、**生徒人気No.1**の取り組みになりました

スライド 31

**【STEP2】 行動計画を立てて実行**

- ・ 行動計画書を作成
- ・ 実施期間中に発表用の成果物を作成
- ・ 成果物（スライド、ポスターなど）を用いて最終表現

**【実施期間】**

第1回：9月27日～10月10日  
※10月11日 中間報告会（振り返り・ブラッシュアップ）

第2回：10月11日～10月31日  
※11月1日 中間報告会（振り返り・ブラッシュアップ）

第3回：11月8日～11月21日  
※11月22日 最終表現

スライド 32

**【STEP2】 最終表現**

**【最終表現の形式】**

- ・ プレゼン
- ・ レポート
- ・ ポスター
- ・ 動画

自分に合った表現方法を選択する

⇒ 選択制にすることで生徒の自己決定力を育む

スライド 33

**【STEP2】 最終表現（プレゼン形式）**

スライド 34

**【STEP2】 最終表現（ポスター形式）**

スライド 35

**【STEP2】 最終表現（レポート形式）**

スライド 36

**ここまでの課題**

**【生徒】**

- ・ 自分のためではなく、評価のために行動をする生徒がいる
- ・ 行動が継続できていない
- ・ 教員の正解を求めている生徒がいる
- ・ 正解がないのでモチベーションにつながらない生徒がいる
- ・ 興味、関心ごと、やりたいことのはずが「苦行」になっている

**【教員】**

- ・ 本当の興味、関心、やりたいことを引き出せていない
- ・ 教員の「やらせたい」が出ている
- ・ 個別対応を心がけているが、授業が画一的になっている
- ・ 生徒数が多いのでファシリテーションしきれない
- ・ 振り返り回数が少なかった

今後（3学期）の取り組み

【STEP1】 自分を知る

自分の在り方・生き方を考える  
自分の興味・関心ごとを考える

【STEP2】 自分のために「行動」する

「なりたい自分」×「やりたいこと」  
小さくてもいいから自分らしく行動することを念頭に置く

【STEP3】 他者のために「行動」する

身近な人のために行動する  
困り事の解決や、幸福感を高めるためにできることを考える

スライド1

2022年度高大連携教育フォーラム 第3分科会

報告者 佐藤賢一（京都産業大学、ハテナソン共創ラボ）

テーマ

**学習者自らの問いづくりを基点(起点)とする  
学び場づくりとその可能性**

スライド2

**案内役 佐藤賢一(ケニチ)**

1965年 北海道 岩見沢市 生まれ

1984年 神戸大学、以降 関西在住(神戸、京都)

2007年 京都産業大学(生命科学部教授)

2017年 ハテナソン共創ラボ 設立(代表理事)

2022年 人生初の入院、そして復活途上



2022年10月吉日 京都・ホテルロビーにて

スライド3

**テーマ**  
学習者自らの問いづくりを基点(起点)とする学び場づくりとその可能性

**キーワード**  
QFT ハテナソン 問いづくり 個別最適化 全体最大化

**構成**

- 1 本発表のゴールと構成についての説明
- 2 QFTとはなにか？ハテナソンとはなにか？(キーワードの理解)
- 3 問い重ねワーク(問いに答えるのではなく、さらに問いを重ねる)
- 4 大学初年次教育科目ハテナソンセミナー(問いづくり学習の応用展開)
- 5 QFTワーク(問いの焦点のもとでの問いづくり体験)
- 6 振り返り(何が学べたか？ゴールに到達できたか？)

1、2、4: 講義形式  
3、5、6: 個人あるいはグループでのワーク、ディスカッション

スライド4

**テーマ**  
学習者自らの問いづくりを基点(起点)とする学び場づくりとその可能性

**キーワード**  
QFT ハテナソン 問いづくり 個別最適化 全体最大化

**構成**

- 1 本発表のゴールと構成についての説明
- 2 QFTとはなにか？ハテナソンとはなにか？(キーワードの理解)
- 3 問い重ねワーク(問いに答えるのではなく、さらに問いを重ねる)
- 4 大学初年次教育科目ハテナソンセミナー(問いづくり学習の応用展開)
- 5 QFTワーク(問いの焦点のもとでの問いづくり体験)
- 6 振り返り(何が学べたか？ゴールに到達できたか？)

1、2、4: 講義形式  
3、5、6: 個人あるいはグループでのワーク、ディスカッション

スライド5

**テーマ**  
学習者自らの問いづくりを基点(起点)とする学び場づくりとその可能性

**キーワード**  
QFT ハテナソン 問いづくり 個別最適化 全体最大化

**構成**

- 1 本発表のゴールと構成についての説明
- 2 QFTとはなにか？ハテナソンとはなにか？(キーワードの理解)
- 3 問い重ねワーク(問いに答えるのではなく、さらに問いを重ねる)
- 4 大学初年次教育科目ハテナソンセミナー(問いづくり学習の応用展開)
- 5 QFTワーク(問いの焦点のもとでの問いづくり体験)
- 6 振り返り(何が学べたか？ゴールに到達できたか？)

1、2、4: 講義形式  
3、5、6: 個人あるいはグループでのワーク、ディスカッション

スライド6

**本発表のゴール**

- ・新しい用語、概念であるQFTとハテナソンについて知る
- ・問いづくりメソッド2種類を体験する
- ・問いづくりを中核とする大学初年次教育科目の一例を知る
- ・学習者による問いづくりについて考え、行動に向かう

スライド7

**テーマ**  
学習者自らの問いづくりを基点(起点)とする学び場づくりとその可能性

**キーワード**  
QFT ハテナソン 問いづくり 個別最適化 全体最大化

**構成**

- 1 本発表のゴールと構成についての説明
- 2 QFTとはなにか? ハテナソンとはなにか? (キーワードの理解)
- 3 問い重ねワーク(問いに答えるのではなく、さらに問いを重ねる)
- 4 大学初年次教育科目ハテナソンセミナー(問いづくり学習の応用展開)
- 5 QFTワーク(問いの焦点のもとでの問いづくり体験)
- 6 振り返り(何が学べたか? ゴールに到達できたか?)

1、2、4:講義形式  
3、5、6:個人あるいはグループでのワーク、ディスカッション

スライド8

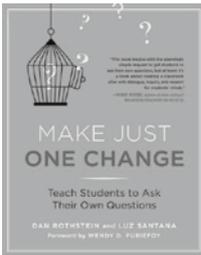
**ハテナソン QFT**

ハテナソンは、QFT(Question Formulation Technique)という手法を知ったことをキッカケに、?とマラソンを組み合わせ、ケニチがつくった造語です。

一人一人の発想が尊重される民主的ルールのもとで行われる問いづくりのことを意味します。類似用語にアイデアソン、ハッカソンがあります。

スライド9

**+ 私たちだけではありません**




世界中の100万を超える教室の教育者がこのメソッドを使っています

スライド10

「問いの焦点」の共有

↓

問いを出し合う

↓

問いを分類・変換する

↓

優先順位をつける

↓

問いを見直す/答えを探る



スライド11

**テーマ**  
学習者自らの問いづくりを基点(起点)とする学び場づくりとその可能性

**キーワード**  
QFT ハテナソン 問いづくり 個別最適化 全体最大化

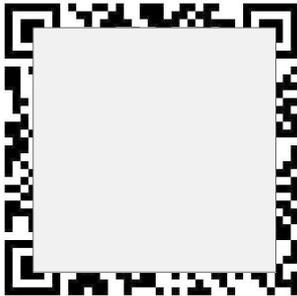
**構成**

- 1 本発表のゴールと構成についての説明
- 2 QFTとはなにか? ハテナソンとはなにか? (キーワードの理解)
- 3 問い重ねワーク(問いに答えるのではなく、さらに問いを重ねる)
- 4 大学初年次教育科目ハテナソンセミナー(問いづくり学習の応用展開)
- 5 QFTワーク(問いの焦点のもとでの問いづくり体験)
- 6 振り返り(何が学べたか? ゴールに到達できたか?)

1、2、4:講義形式  
3、5、6:個人あるいはグループでのワーク、ディスカッション

スライド12

**問い重ねワーク**



https://docs.google.com/document/d/1VZ4OmAmBKXN...GFOSD63tbk9QO

スライド 13

スライド 14

『問いがさね』練習方法

- 1) 問いを1つ、ノートに書く。
- 2) メンバーに問いを聴いてもらう。
- 3) 問いへの問いを言ってもらう。記録する。
- 4) 相手の問いを聴く。
- 5) その問いへの問いを言う。記録してもらう。
- 6) グループ全員がやり終える。

問い: 今日の晩御飯は何かな?  
 問いがさね: 誰が作るのですか? 昨日は何を食べたのですか? いつも何時に食べるんですか?

スライド 15

グループメンバーの問いを読み・聞き、

- ・掘り下げて、深く考えるために
- ・確認したいことを表現するために
- ・そもそも○○とは？を明らかにするために
- ・その問いの背景や狙いを明らかにするために

・・・といった目的のために役立つような問いを考え、書いてみましょう！（1つの問いに1つ）

スライド 16

ご自身の問いのリストを読み・聞き、

- ・閉じた問いなら△印を
- ・開いた問いなら○印を

それぞれの問いに付けましょう。

グループ内で大事な問いを1～3個選び、その理由を説明する準備をしましょう（制限時間4分）。

スライド 17

**テーマ**  
 学習者自らの問いづくりを基点(起点)とする学び場づくりとその可能性

**キーワード**  
 QFT ハテナソン 問いづくり 個別最適化 全体最大化

**構成**

- 1 本発表のゴールと構成についての説明
- 2 QFTとはなにか? ハテナソンとはなにか? (キーワードの理解)
- 3 問い重ねワーク(問いに答えるのではなく、さらに問いを重ねる)
- 4 大学初年次教育科目ハテナソンセミナー(問いづくり学習の応用展開)
- 5 QFTワーク(問いの焦点のもとでの問いづくり体験)
- 6 振り返り(何が学べたか? ゴールに到達できたか?)

1、2、4: 講義形式  
 3、5、6: 個人あるいはグループでのワーク、ディスカッション

スライド 18

ハテナソンセミナー説明ムービー(約15分 YouTube)

[https://youtu](https://youtu.be/...)

京都大学 大学教育研究フォーラム 口頭発表  
 2021年3月オンライン開催  
 全学共通科目ハテナソンセミナーの設計、運営および成果  
 佐藤賢一(京都産業大学生命科学部)

スライド 19



スライド 20



スライド 21

**事例紹介:ハテナソンセミナー最終課題(学びの企画書)**

氏名: \_\_\_\_\_ 学部・学科: \_\_\_\_\_ 4・5 時間目

第1の問い (SDGs)	
第2の問い (大学)	
第3の問い (わたし)	
第4の問い/ミッション	
仮説/予想される答え	
最終到達地/ビジョン	
ありたい姿/スローガン	
必要な情報、モノ・コト	必要なアクション (人、時間、お金、行動など)

スライド 22

タスク/タイムライン	2年春SEM	2年秋SEM	3年春SEM	3年秋SEM	4年春SEM	4年秋SEM
1						
2						
3						
4						
5						

スライド 23

**テーマ**  
学習者自らの問いづくりを基点(起点)とする学び場づくりとその可能性

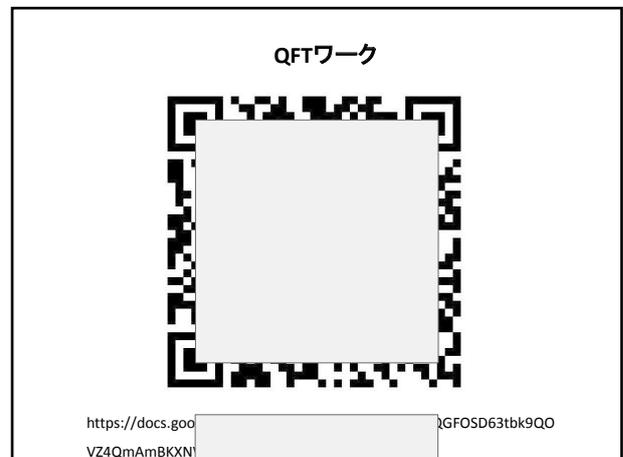
**キーワード**  
QFT ハテナソン 問いづくり 個別最適化 全体最大化

**構成**

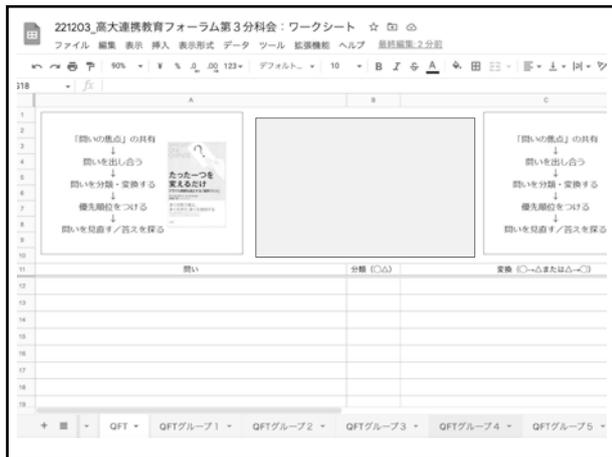
- 1 本発表のゴールと構成についての説明
- 2 QFTとはなにか? ハテナソンとはなにか? (キーワードの理解)
- 3 問い重ねワーク(問いに答えるのではなく、さらに問いを重ねる)
- 4 大学初年次教育科目ハテナソンセミナー(問いづくり学習の応用展開)
- 5 QFTワーク(問いの焦点のもとでの問いづくり体験)
- 6 振り返り(何が学べたか? ゴールに到達できたか?)

1, 2, 4: 講義形式  
3, 5, 6: 個人あるいはグループでのワーク、ディスカッション

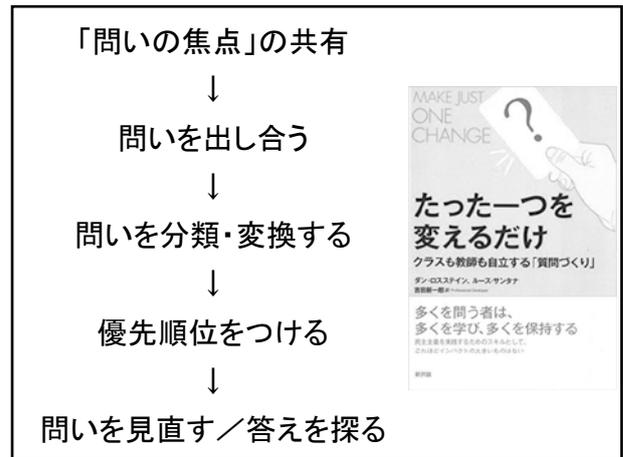
スライド 24



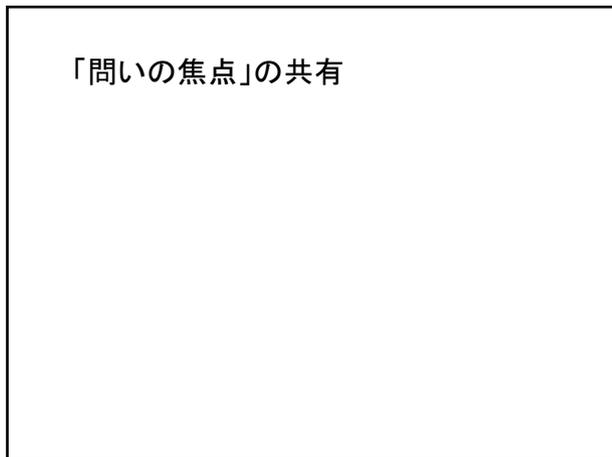
スライド 25



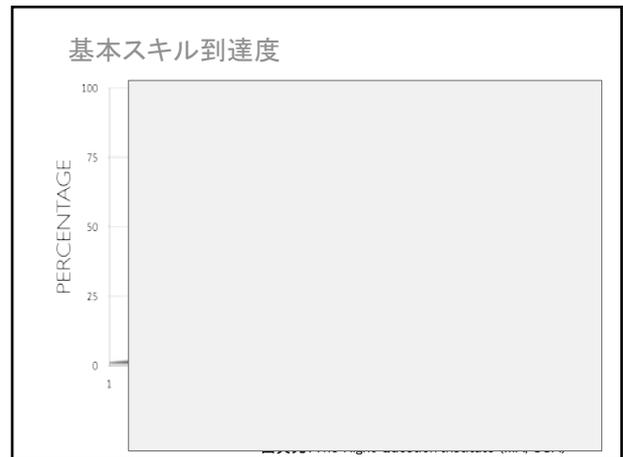
スライド 26



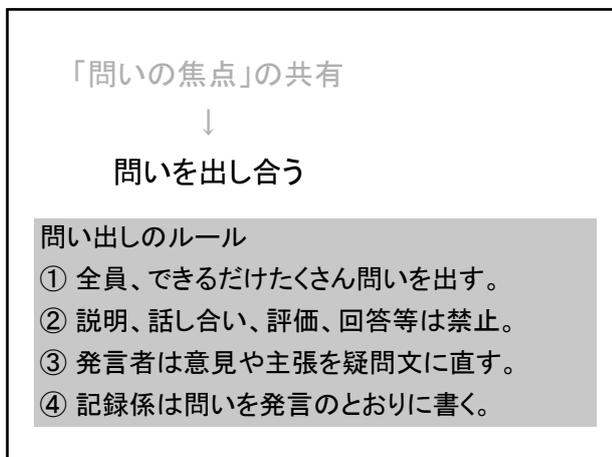
スライド 27



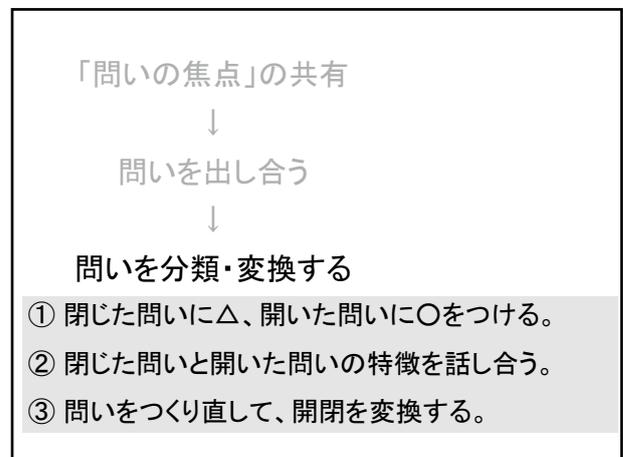
スライド 28



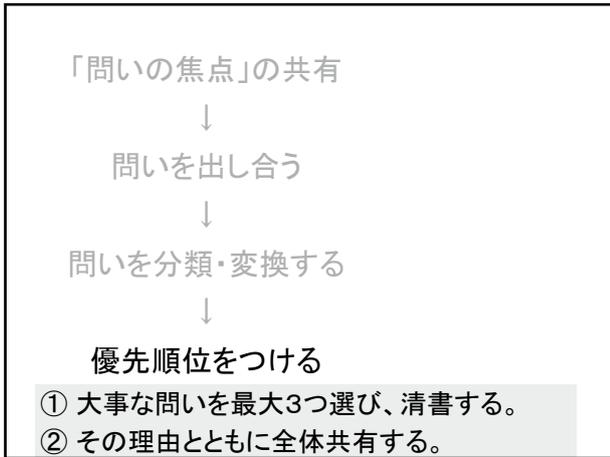
スライド 29



スライド 30



スライド 31



スライド 32

グループ1、3、5、7

Right Question Instituteに問い合わせるとしたら？ ベスト3

グループ2、4、6、8

自社あるいは自校での研修のお題とするなら？ ベスト3

スライド 33



スライド 34

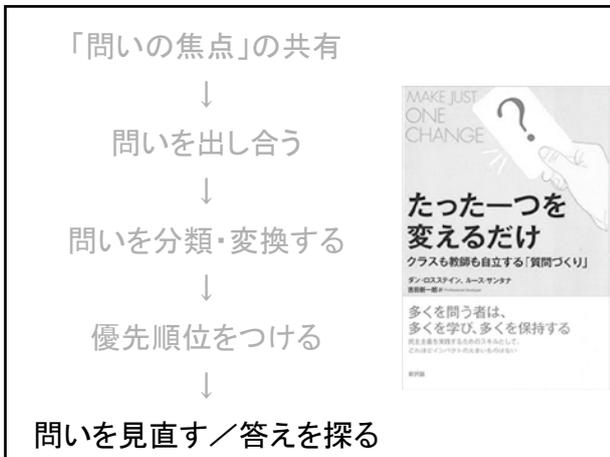
グループ1、3、5、7

18歳の立場で問いを立てるとしたら？

グループ2、4、6、8

5歳の子どもが問いを立てるとしたら？

スライド 35



スライド 36

テーマ  
学習者自らの問いづくりを基点(起点)とする学び場づくりとその可能性

キーワード  
QFT ハテナソン 問いづくり 個別最適化 全体最大化

構成

- 1 本発表のゴールと構成についての説明
- 2 QFTとはなにか？ハテナソンとはなにか？(キーワードの理解)
- 3 問い重ねワーク(問いに答えるのではなく、さらに問いを重ねる)
- 4 大学初年次教育科目ハテナソンセミナー(問いづくり学習の応用展開)
- 5 QFTワーク(問いの焦点のもとでの問いづくり体験)
- 6 振り返り(何が学べたか？ゴールに到達できたか？)

1、2、4: 講義形式  
3、5、6: 個人あるいはグループでのワーク、ディスカッション

スライド 37

## 振り返り

- ・どんなことを行いましたか？
- ・どんなことが学べましたか？
- ・案内役が提示したゴールにたどり着けましたか？
- ・全体的にこのプレゼンテーションの内容に満足していますか？
- ・これからのご活動に活用できそうなことはありますか？
- ・もしあれば、それはいつから実行できそうですか？

スライド 38

The screenshot shows the Hatenaathon website with a navigation bar (Home, Workshops, News, Members, Sponsors, Contact Us) and several news items. A prominent QR code is located on the right side of the slide.

スライド 39

The screenshot displays a Zoom meeting page for the 'Hatenaathon・ファシリテータ養成セミナー：基礎編' (Hatenaathon Facilitator Training Seminar: Basic Edition). It includes the date (December 17, 2022), time (10:00-16:30), and the host (Satoru Sato). The page also features a list of participants and a list of topics to be discussed.